

■第15回高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会

日時:2019年9月28日(土) 19:00-21:00
講演『高次脳機能障害の臨床:社会的行動障害を中心に』
講師:村井 俊哉氏
(京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座(精神医学)教授)
参加費:無料/定員:250名
問合せ:千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援センター
Tel:043-291-1831/Fax:043-291-1847

「高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会」は高次脳機能障害を支援する専門職向けの勉強会として毎年開催しています。今年は社会参加を困難にし、支援者も支援に悩むことが多い「社会的行動障害」を中心とした講演を企画しました。講師は、京都大学大学院医学研究科教授で、大変わかりやすいご講演をされる村井俊哉先生です。是非ご参加くださいますようご案内いたします。

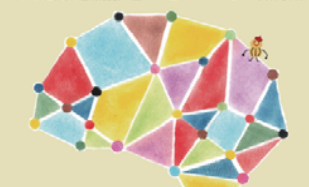
ミニ解説:社会的行動障害とは?

元気な脳は刺激に対する抑制と興奮を適度に調整しますが、病気や事故で脳にダメージを受けるなどの調整がきかなくなり、依存性・退行、欲求コントロール低下、感情コントロール低下、対人技能拙劣、固執性、意欲・発動性の低下、抑うつ、感情失禁といった症状が出る場合があります。この症状は「社会的行動障害」といって、社会参加、社会復帰に支障をきたし、家族や周囲の関係者にも影響を及ぼすことが多くみられます。対応としては薬物治療や環境調整(物理的・人的)などが代表的です。



高次脳機能障害の臨床…社会的行動障害を中心に

第15回高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会



2019年 9月28日(土)

19:00-21:00 (18:30 開場) 入場無料
千葉市民会館 B1 小ホール (千葉市中央区霞町1番1号)

高次脳機能障害の中で、医療でも地域でも支援に難渋することが多い症状として「社会的行動障害」があげられます。今年の「懇話会」はこの社会的行動障害を中心とした高次脳機能障害の理解を深めるために、京都大学の村井俊哉先生のご講演を企画いたしました。
村井先生はご存知の方も多いと思いますが、ご専門は精神科、神経心理学、神経画像学、高次脳機能障害の臨床と研究であり、数多くの著書、論文を手掛けていらっしゃいます。今回、大変ご多忙なか村井先生を千葉にお招きすることが出来ました。是非、多くの支援者の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

講師 村井 俊哉 氏 (むらい としや)

京都大学大学院医学研究科
脳病態生理学講座(精神医学) 教授

1966年大阪府生まれ。1991年京都大学医学部卒。1998年京都大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。マックスプランク認知神経科学研究所、京都大学医学部附属病棟などを経て、2009年より京都大学大学院医学部医科脳神経科学教授、脳病態生理学講座(精神医学)、高次脳機能障害の臨床、
著書「精神医学の概念(ディス)」(創刊社)、新書「認知神経科学講座」(みすず書房)、「一歩の狂気:心の病がリーダーを導く」(日本評論社)、編纂に、「高次脳機能障害の考えかた」と「高次脳機能障害」(中外医学社)など。

懇話会の申し込みは、QRコード・Eメール:kojuro@chiba-reha.jpにて受付
千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援センター
〒260-0005 千葉県千葉市緑区岩田町1丁目45番2
Tel:043-291-1831(内線) Fax:043-291-1847

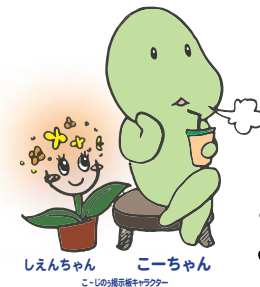


データ読み取りにアプリが必要です

こへじのう

掲示板

- 特集 千葉県内の支援拠点機関の取り組み
- 支援センターだより
- 全国の動き・イベント講習会報告など



38

2019.7

こへじのう掲示板は千葉県千葉リハビリテーションセンターや千葉県、全国の高次脳機能障害に関わる情報を紹介する広報誌です

菜の花メッセージ

「高次脳機能障害者にとってリハビリテーションとはなにか?」

埼玉県総合リハビリテーションセンター神経科

埼玉県高次脳機能障害者支援センター

センター長 先崎 章
せんざきあきら



私ごとで恐縮ですが、縁あって日本リハビリテーション医学会学術誌の編集委員を拝命し今年で5年目になった。2カ月に一回程度、担当理事も含め10名ほどが集まって紙面や投稿論文について議論を行う。他の編集委員はみな若く優秀で、たいへん勉強になるのが継続してこられた理由である。その委員会の席上で最近、リハビリテーションという用語の使用についていろいろ考える機会があった。これまで意識することなくリハビリテーションという用語を、「リハビリ」あるいは「リハ」と省略し、あるいは「リハビリ」「評価」「介入」という言い方をしてきた。これはリハビリテーションという用語がむかしは広く、名誉の回復という意味で用いられていたことにも由来するのであろう。働きかけや関与といったニュアンスを含む、なにか広い意味を包有するものとして現場で使用されてきたし、小生もそこにリハビリテーションという用語の響の良さを感じていた。しかし昨年には日本リハビリテーション医学会の理事会の方針としては、「リハビリテーション医療」「リハビリテーション診断」「リハビリテーション治療」ときちんと吟味して使用するべきという。これはリハビリテーション医学が外科や内科などといった他科に伍して、その存在を主張するためにも必要なことなのであろう。

ここで高次脳機能障害者への支援を考える。医学的なこと、福祉的なこと、経済的なこと、と様々な事柄が同時並行的に浮かび上がり、対応を求められる場合もしばしばである。その場合は「リハビリテーション」と従来通りの言い方でよいのではと思えてくる。しかし、なかなか当事者や家族が満足する結果に至らないこともある。スタッフはただおつきあいをしているのだけなのか?それともリハビリテーションを行っているのか?常に点検していかなければならない課題である。



先崎先生が講演される講座紹介

高次脳機能障害地域支援者向け連続講座2019

先崎先生は千葉県リハに非常勤として精神科の外来をご担当いただいております。連続講座の「社会的行動障害」について12月20日ご講演いただく予定です。皆様のご参加をお待ちしております。詳細はP3をご覧ください。



▲編集されている学術誌

編集後記

■令和になって初めての「こへじのう」掲示板をお届けします。年号が変わって心機一転ですが、千葉県リハの高次脳機能障害支援では当事者・家族の皆様への直接支援はもとより、地域の支援者の方々と共に連携を強めて、地域での支援力強化を目指して様々な取り組みを行っています。地域支援者向け連続講座もその一つです。県内での高次脳機能障害への理解が広まり、支援が着実に進められるように今年も頑張ります。掲示板とともにお楽しみください。＜三代目O＞

■全国の支援者様に『こへじのう』掲示板を読んでいただきたく、今号から送付範囲を広げました。はじめてお読みくださった皆様、お時間を割いて目を通していただきありがとうございます。この情報誌はモデル事業から始まり、令和で18年目を迎えました。千葉県、全国の動き、家族会情報、千葉県リハ情報などを掲載しています。次号からは千葉県内の支援拠点機関である亀田リハ、旭神経内科の近況も一緒に掲載する予定です。これからも千葉県の取組みを掲示板で発信し続けていきます。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。(Y)

こへじのう

掲示板

2019.7 vol. 38

発行日 ■ 2019年7月26日

発行 ■ (社)福 千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県千葉リハ リハビリテーションセンター
千葉市緑区岩田町1-45-2 Tel. 043-291-1831(代) 内198

発行責任者 ■ 高次脳機能障害支援センター センター長 小倉由紀
http://www.chiba-reha.jp/ ※ホームページからご覧いただけます



高次脳機能障害支援普及事業全国連絡協議会

2019.6.26
10:00-12:00
国リハ

全国会議では国リハ高次脳機能障害情報・支援センターからの報告と、47都道府県の30年度実績と今年度の事業計画がブロックごとに報告されました。

国リハからは、ウェブサイトの利用状況や主な問い合わせ内容が紹介されました。公務員の復職支援に関しては、31年4月から国家公務員の就労支援は職業センター・ナカボツの利用が出来なくなったがハローワークへ相談員を加配し、役割交代となったとの説明がされました。困難事例への相談は国リハに相談し現場の状況を把握させてほしいとの要望もありました。

質疑応答では、介護保険と医療保険との併用について一部可能であることを積極的に周知してほしい、ディケアでも医療との併用ができるようにとの要望があり、厚労省担当者が持ち帰り担当へ伝えるとの回答がありました。

厚労省の担当者の感想では、就労支援、小児高次脳、社会的行動障害への支援とともに、家族会からはあまり聞かれていなかったが運転免許（再開支援）に多く取り組まれていることが意外だった、という趣旨が話されていました。

高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

2019.6.26
13:00-16:00
国リハ

蒸し暑い中、令和初めての会議が開催されました。全国から集まった多くの参加者が名刺交換、自己紹介から始まり、架空事例のグループワークで議論を交わしました。

研究発表では、滋賀県、京都府、奈良県の施設の協力による“高次脳機能障害の社会的行動障害による社会参加困難への対応”、実績報告は滋賀県、千葉県、北海道からその地域の特徴ある取り組みが紹介されました。研究報告で高次脳障害の早期発見・治療（特に薬物療法）・リハビリテーションの重要性、関係機関に対し周知する必要性、それプラス認知機能を補うことで行動障害が軽減することが見られたとの報告があり、NPI項目のうち“興奮・無関心・脱抑制・易怒性”の症状への対応の可否が影響することが示され、支援コーディネーター向けのテキストが作成されたとの報告がありました。コーディネーターの役割が見えた会議でした。



▲コーディネーター全国会議会場

高次脳機能障害支援センターの近況や支援活動などを報告します。

2019.7.10

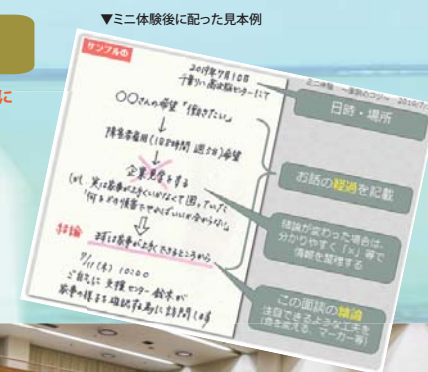
2019

高次脳機能障害 地域支援者向け連続講座を開催しました！

今年度初めて高次脳機能障害支援センターでは、千葉県内の地域支援者を対象に『高次脳機能障害地域支援者向け連続講座2019』を企画しました。

5回シリーズの第1回『高次脳機能障害概論』は当センター脳神経内科 赤荻医師が講師を務めました。内容は、高次脳機能障害の行政的定義、脳の機能、障害特性と対応について、当院での入院から外来にかけての関わりについて、となっており、特に障害特性への対応については明日からの支援に活かせる様具体的にお話しさせて頂きました。ミニ体験では、面談結果を本人に書面に書いてお渡しする“見える化”を体験して頂いた後に、見本例を示してポイントを解説しました。50名定員をはるかに超えた約120名を受け入れる形となり会場が手狭になってしまいましたが、アンケートでは、「大変役に立った・役に立った」が94%（無記入6%）、自由記載では「高次脳機能障害の原因と対応を聞き、支援の方向性が見えたように思った」「多くの職員が理解できるように多人数を受け入れてほしい」「支援のヒントを沢山頂けた」「ミニ体験とても役に立った。明日からの支援で活かそう」等、の声を頂き、地域支援者の皆様のニーズの高さを感じました。連続講座はあと4回開催されます。有意義な講座となる様、スタッフ一同努力して行きたいと思います。

第2回 8/21(水)『各論1：注意障害・神経疲労(脳疲労)』
第3回 10/16(水)『各論2：記憶障害・遂行機能障害』
第4回 12/20(金)『各論3：社会的行動障害』
第5回 2/19(水)『各論4：高次脳機能障害と就労』
*詳しくはホームページをご確認ください。



講師 赤荻医師

参加者123名

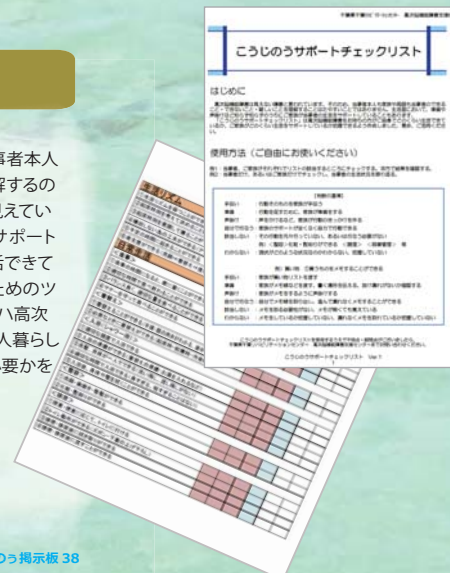
こ～じのうサポートチェックリストを作成しました！

高次脳機能障害は「見えない障害」と言われています。そのため、当事者本人も家族や周囲も当事者のできること、できないこと、難しいことを理解するのはたやすくありません。当事者が生活面において一見できるように見えていても、実はご家族が知らず知らずのうちに準備や声掛けなど生活をサポートしていることがあります。そこで、当事者ご自身はどの程度自分で生活できているのか、ご家族はどのくらい生活をサポートしているか、振り返るためのツールとしてこのチェックリストを作成しました。そして、この度、千葉県高次脳機能障害支援センターホームページに掲載しました。当事者が一人暮らしをしたときに、困る事はないか、その為にどんな支援やサービスが必要かをイメージするための第一歩としてご活用して頂けたらと思います。どうぞご自由にお使いください。

こ～じのうサポートチェックリスト



～当センター配布～



1 千葉県千葉リハビリテーションセンター

<http://www.chiba-reha.jp/>

千葉市緑区誉田町1-45-2

1981年に県が設置し、身体障害及び高次脳機能障害を有する小児から成人までの幅広い当事者に、医療リハから社会リハ、職業リハまでを提供する総合リハビリテーションセンターです。リハビリテーション医療施設をはじめ総合療育センター、障害者支援施設更生園、補装具制作施設、高次脳機能障害支援センターを有しています。高次脳機能障害支援では県の支援拠点機関として、当事者支援、家族・家族会支援、各支援機関との連携、研修・普及啓発事業、支援技法研究を行っています。



カフェ倫駈(就労当事者の交流会)

今年度の取り組み

①当事者支援では、医療での評価・診断をもとに、治療、リハビリテーションを行っています。自動車運転再開、就労支援、小児期発症者への支援が特徴的です。高次脳機能障害支援センターでは当事者・家族、支援機関からの相談に対応し、必要に応じてアウトリーチ支援を行い地域支援者との連携を図っています。②研修事業では、支援者向け分野別研修会(運転、小児、就労、生活版ジョブコーチ)、医療職向けセミナー、当事者家族交流会、リハ講習会を主催。今年度ははじめて、地域支援者向け連続講座(年5回)を開催します。その他、支援機関の研修会への講師派遣等も行っています。③Web「支援情報マップ」更新作業と地域実態調査の実施、④自動車運転再開支援の充実と関係機関との連携強化、⑤就労経験者の交流会開催なども行っています。

千葉県マスコットキャラクター
チーバくん ▶

3 亀田リハビリテーション病院

<http://www.kameda.com/ja/rehabilitation/> 鴨川市東町975-2

亀田リハビリテーション病院は平成16年6月1日に開院しました。亀田総合病院に隣接し、リハビリテーションのみ単科で2フロア56床となっています。世界的に有名な建築家文化功労者の安藤忠雄氏の設計による美しくユニークな3階建ての2・3階が病室ですが、従来の病院の常識を超えた広い個人空間と開放的な共用空間が融合され、リハビリの場と生活の場の境界線が無いのが大きな特徴です。

今年度の取り組み

毎年恒例の映画上映会を予定しております。高次脳機能障害に関わる映画を上映し、上映前にレクチャーを実施しております。参加者が増えており引き続き行いたいと考えています。一般的な高次脳機能障害の普及も大切ではありますが、当地域は小児の高次脳機能障害について知らない人がほとんどです。小児の高次脳機能障害研修も行います。そして高次脳機能障害を持ちながら生活に復帰することに苦労しているケースが多いので、生活版ジョブコーチの知識をこの地域にも広めていきたいと思っています。最後に夷隅地域に活動が行き届かないので、夷隅方面にも活動範囲を広げたいと考えています。



映画上映の様子



リハビリ文化祭

2 旭神経内科リハビリテーション病院

<http://www.yayoiikai.or.jp/>

松戸市栗ヶ沢789-1

当院は98床の回復期リハビリテーション病院であり、関連施設として介護老人保健施設、訪問看護ステーションを有しています。また、県や市から本事業(高次脳機能障害支援拠点機関)、地域リハビリテーション広域支援センター、認知症疾患医療センター、地域包括支援センターの4つの委託事業を受託しており、病気や障害を抱えても可能な限り今まで住み慣れた地域・環境で生活を継続出来るような在宅医療にも力を入れております。

今年度の取り組み

医療系では、(1)高次脳機能障害の診察・評価・訓練(外来・入院)及び長期フォロー(2)社会復帰へ向けた集団訓練(毎週1回)、(3)当事者家族及び他医療機関からの患者相談、(4)当事者を従業員とした「高次脳カフェ」(年1回)、(5)集団精神療法プログラム(毎週1回)の実施を予定しています。また、地域支援として、(1)家族会主催グループ活動「菜の花チア」への支援(月1回)、(2)ボランティア養成講座(6月から月1回)、(3)復職・就労懇話会「ちば家族のWA」(年4回)を行い、普及啓発として、3回の講演会を予定しております。加えて、地域リハビリテーション広域支援センターと共催で東葛北部圏域連絡協議会を実施し連携支援体制の構築を図っていく予定です。



高次脳カフェ



ボランティア養成講座

2019.7.17 千葉県庁

千葉県高次脳機能障害支援コーディネーター研修会

千葉県内3つの支援拠点機関の支援者間の情報交換・共有を行い、相互の連携を図り、支援コーディネーターの質的向上を目的に本研修会が初めて開催されました。千葉リハから10名、旭神経内科リハビリテーション病院から6名、遠方の亀田リハビリテーション病院からも3名と、多くの支援コーディネーターと支援スタッフが県庁に集まりました。前半は県からの報告と各拠点機関の取り組み報告、後半は4つのグループに分かれてのグループディスカッションを行い、課題や悩み、展望について、支援者同士の意見交換を行いました。参加者からは、「来年も是非開催してほしい」、「今後は事例検討なども行いたい」との感想や意見が寄せられました。



▲グループディスカッション



▲支援拠点の取り組み報告



千葉県庁本庁舎

多職種連携コンサルテーション・事例検討会に関する研究
手引き作成の報告紹介



2016～2018年度に日本損害保険協会自賠責運用益抛助成金事業として、「高次脳機能障害者支援における多職種連携コンサルテーション・事例検討会に関する研究」(委員長:神奈川工科大学小川喜道教授)が行われ、千葉リハから委員として参加いたしました。この研究事業の成果物として、多職種による具体的な事例検討の進め方や、すぐに使える実践的な制度活用の手引きが載っている「高次脳機能障害者支援コーディネーター 多職種連携支援・事例検討会・制度活用の手引き」を作りました。この手引きは当センターのホームページ上からも閲覧ができますので、ぜひご利用ください。

全日本指定自動車教習所協会連合会
(全指連) 報告書紹介



全指連ホームページ <http://www.zensiren.or.jp/>

高次脳機能障害者の自動車運転再開は非常に重要な課題です。指定自動車教習所の全国組織である全指連は、2017～2018年度に渡り「高次脳機能障害者を有する運転免許保有者の運転再開に関する調査研究」を行い、千葉リハから委員が参加しました。報告書を作成し、全国の会員指定教習所と都道府県教習所協会等に配布しています。この報告書には高次脳機能障害者の運転再開・実車評価に関して、先進的な教習所のモデルや指導要領例、実車評価用紙、その他にも医療機関と教習所が連携するための情報が掲載されています。報告書本文は全指連のホームページからダウンロードできます。(なお、資料編は紙媒体の報告書のみに掲載されています。)

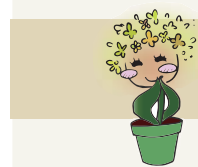
第19回千葉リハハビリテーションセンター公開講座

ハイリハちばの活動
～喫茶ぶう～

2019.7.6 13:00-16:00 千葉リハ・リハビリテーションセンター



今年も「喫茶ぶう」オープンしました。梅雨寒の1日、公開講座参加者は192名と近年では最高の参加者数を数えました。そのおかげ(?)で売り上げアップ。毎年好評のクッキー＆マドレーヌも早々に売り切れ、プレミアムアイスコーヒーも、公開講座の熱気のおかげで、売り切ることができました。「喫茶ぶう」は高次脳機能障害者の会ハイリハちばの当事者と家族が主体となって運営し、高次脳支援センターが協働しています。「いらっやいませ」「冷たい飲み物やクッキー＆マドレーヌはいかがですか」など、元気な呼び声に誘われて、講演と展示ブースを巡る合間に、沢山の方が立ち寄って下さいました。お陰様で忙しかったこともあり、来年は休憩時間を組み込んだシフトを作ろうと、前向きな意見が交わされました。ご来店の皆様ありがとうございました。またのご来店をお待ちしております!!



家族会のかつどう

2019.6.16
千葉リハ 大ホール



ディア ひまわり

今回は、代表である角田さん、役員の古見さん、当事者4名、付き添いの家族1名、支援センタースタッフ1名の参加でした。プログラムは、開会の言葉、ラジオ体操、みんなで歌いましょう、言葉遊び、それぞれの参加者のコーナー(参加者が一人ずつ最近の話題をお話する)、お楽しみコーナー(ジェスチャーゲーム)、閉会の言葉でした。ディアひまわりは毎月第2第4木曜日の13:00から習志野駅(新京成)のすぐそばの建物で集まっています。皆さんとごやかに時間と空間を共有する素敵な社交場となっています。

ハイリハちば定例会

「ハイリハちば」は20～40代と比較的若い当事者高次脳機能障害者の会ハイリハちば家族が2カ月に1回の定例会を中心に活動しています。支援センタースタッフが定例会活動、役員会に参加しています。

6月の定例会は「ポッチャ大会」でした。当日は6チームが2つのコートに分かれ、総当たり戦を行いました。チームはくじ引きの即席チームでしたが、緻密な作戦を立てチームワークで攻めるチーム、メンバーの個性で戦うチームとそれぞれのカラーがあり、プレイする側も応援する側も大いに盛り上がりしました。最後の各コート1位同士の決勝戦では熱い戦いが繰り広げられ、優勝チームには賞状と景品が授与され、盛大な会となりました。

2019.6.27
船橋市身体障害者福祉センター



ちば
高次脳機能障害者
と家族の会

2019.7.9
健康福祉会館(ふれあい22)



菜の花 チア

菜の花チアは、東葛菜の花「高次脳機能障害者と家族の会」が毎週火曜日13:30から松戸市ふれあい22で行なっている当事者参加プログラムです。支援センターは年5回参加し、楽しみながら注意力・記憶力・遂行機能等の訓練となるプログラムを提供しています。7月9日のチア会には当事者が6名参加されていました。近況報告・体操を行なった後の千葉リハ支援センタープログラムでは、自己紹介クイズなどの3つのプログラムを実施しました。脳疲労を実感された方が多いようでしたが、「こういう頭を使うことは定期的にやりたい」とおっしゃっていました。

東葛菜の花
「高次脳機能障害者と
家族の会」